



コムギ赤かび病の適期防除について

茨城県病害虫防除所では、令和7年4月15日付で病害虫速報 ([sokuhour7-2.pdf](#)) を発表し、コムギ赤かび病の適期防除を呼びかけています。
下記を参考にして適期に防除を行って下さい。



写真 赤かび病の発病穂
(茨城県病害虫防除所)

赤かび病

主に穂に発生する。初め、小穂が点々と褐色になって、穎の合わせ目に沿って桃色のかび(写真参照)を生じる。被害子実の多くは不稔やくず麦となる。

また、本病原菌はデオキシニバレノール(DON)等のかび毒を産出するため、**農産物検査規格において、赤かび粒の混入が0.0%を超えた場合規格外となる。**

防除対策

- ① **コムギの赤かび病の防除適期は、開花始期～開花期(出穂期の7～10日後頃)である。**予測される出穂期および防除適期は品種や播種期によって異なるため、圃場ごとに出穂状況を確認して適期に防除する。
- ② 赤かび病菌の子のう胞子の飛散好適条件は、「日最低気温 10℃以上、日最高気温 15℃以上の条件を満たし、湿度 80%以上の日か降雨日とその翌日」である。**飛散好適条件が続く場合は、1回目の薬剤散布 7～10 日後に2回目散布を行う。**
- ③ 薬剤を選定する際は、使用回数や収穫前日数に十分注意する(表 1)。
また、2回以上散布する際は、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、FRAC コードの異なる薬剤を用いる。

表1 コムギ赤かび病に登録のある主な薬剤

(令和7年4月18日現在)

薬剤名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法「無人航空機による散布」の適用 ¹⁾	FRACコード ³⁾
トップジンM 水和剤	1,000～ 1,500倍	収穫14日前まで	3回以内(但し、出穂期以降は2回以内)	無 ²⁾	1
チルト乳剤25	1,000～ 2,000倍	収穫3日前まで	3回以内	有	
シルバキュア フロアブル	2,000倍	収穫7日前まで	2回以内	有	3
ワークアップ フロアブル	2,000～ 3,000倍	収穫7日前まで	3回以内	有	
ストロビー フロアブル	2,000～ 3,000倍	収穫14日前まで	3回以内	無	11

- 1) 「無人航空機による散布」においては、希釈倍数等が表中の内容と異なるので十分注意する。
- 2) ただしトップジン M ソルは、使用方法「無人航空機による散布」の適用がある。
- 3) 殺菌剤耐性菌対策委員会 (FRAC) により、殺菌剤の有効成分の作用機構を分類し、コード化したもの。

- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
- 営農 News は JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。